

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中1		社会		3
教科書			補助教材		
帝国書院 『中学生の地理 世界の姿と日本の国土』			育仲社『地理 I iワーク』 新学社『学習の達成』（バラテスト）		
東京書籍 『新しい社会 歴史』			文理『中学 Winpass 社会 歴史』		

年間指導目標

地理分野では、世界の自然環境および生活・文化、産業の地域的特色について理解させるとともに、その調査のための基礎的な技能を身につけさせる。
 歴史分野では、歴史を単なる昔物語に終わらせないようにする。そのため、つねに現代社会に生きる私たちの視点を意識するよう努める。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章 世界の姿 第2章 世界各地の人々の生活と環境 第3章 1節 アジア	いろいろな国の国名と位置 地球儀と世界地図の違い 世界の様々な地域の生活と環境 アジア州の自然環境・文化・産業等について	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大陸・大洋・州および日本をはじめとする国々の位置や簡単な特色を把握させる。 地図帳の利用方法を身につけさせる。 緯度・経度を使い、目標を探ることができるようにし、また時差の計算ができるようにする。 地球儀と世界地図の長短を理解させる。 アジアの地域的特色を、自然、生活・文化、人口、産業などの側面を通して理解させる アジア諸国と日本のつながりを理解させる。
	後半	第1章 歴史へのとびら 1節 歴史をとらえる見方・考え方 2節 身近な地域の歴史 第2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明と宗教のおこり 2節 日本列島の誕生と大陸との交流 3節 古代国家の歩みと東アジア世界	歴史のとびら 人類の出現と進化 古代文明のおこりと発展 中国文明の発展 ギリシャ・ローマ文明 宗教のおこりと三大宗教 旧石器時代と縄文時代の暮らし 弥生時代の暮らしと邪馬台国 大王の時代 聖徳太子の政治改革 東アジアの緊張と律令国家への歩み 律令国家の成立と平城京 奈良時代の人々の暮らし 天平文化	<ul style="list-style-type: none"> 文明がおこった地域の共通点を理解させる。その際、小学校で学ぶことのなかった「世界」にも関心を広げさせ、とくに日本の歴史には東アジアの影響が大きいことに注目させる 日本の国土統一、律令体制の成立とその後の発展のようすを朝鮮半島、中国の動きと関連させて理解させる。
2学期	前半	2節 ヨーロッパ 3節 アフリカ 6節 オセアニア	ヨーロッパ州、アフリカ州、オセアニア州の自然環境・文化産業等について	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの地域的特色を、自然、生活・文化、産業などを通して理解させる。 ヨーロッパの統合が生活に与えた影響を理解させる。 アフリカの地域的特色を、自然、生活・文化、産業などを通して理解させる。その際、植民地支配が与えた影響について注目させる。 オセアニアの地域的特色を、自然と産業の関わりを通して理解させる。 オセアニアの社会の現状について理解させる
		3節 古代国家の歩みと東アジア世界（続き）	平安京と律令国家の変化 摂関政治の時代	<ul style="list-style-type: none"> 武士の登場から鎌倉幕府の成立とその崩壊までの過程を、武

	後半	<p>第3章 中世の日本</p> <p>1節 武士の政権の成立</p> <p>2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開</p>	<p>国風文化</p> <p>武士の成長</p> <p>院政から武士の政権へ</p> <p>鎌倉幕府の成立と執権政治</p> <p>武士と民衆の生活</p> <p>鎌倉時代の文化と宗教</p> <p>モンゴル帝国とユーラシア世界</p> <p>モンゴルの襲来</p> <p>南北朝の動乱と室町幕府</p> <p>東アジアとの交流</p> <p>産業の発達と民衆の生活</p> <p>応仁の乱と戦国時代</p> <p>室町文化とその広がり</p>	<p>士社会固有の特徴とからめて理解させる。</p> <p>・鎌倉文化の特色と鎌倉新仏教の誕生について、貴族文化との相違に注目させながら理解させる。</p>
3学期		<p>4節 北アメリカ</p> <p>5節 南アメリカ</p> <p>第1章 日本の姿</p> <p>第2章 世界と比べた日本の地域的特色</p>	<p>南北アメリカ州の自然環境・文化産業等について</p> <p>世界の中での日本の位置・時差</p> <p>日本の領土問題・行政区分</p>	

評価方法	定期試験を中心に，課題レポートの内容・授業態度などをくわえ総合的に評価します。
学習方法	中学社会を学ぶスタートとなる学年です。基本的な学習習慣を身につけることが大切です。あらかじめ学習する箇所を教科書で予習してください。ていねいに読んで，わからないところに印をつけます。そのうえで授業を受けてください。かならずノートを用意し，板書を中心に大事と思われることから書いて，あとで復習します。
注意事項	授業の受け方，定期試験というテストのあり方など，わからない人も多いかと思います。担当者がそのつと説明します。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材『iワーク』、『中学 Win Pass 社会 歴史』やiPadでClassi等を使って，自宅学習をします。学習する箇所は，そのとき担当者から連絡します。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中2		社会		3
教科書		補助教材			
帝国書院 『中学生の地理 世界の姿と日本の国土』		育伸社『地理Ⅱ iワーク』 新学社『学習の達成』（バラテスト）			
東京書籍『新しい社会 歴史』		文理『中学 WinPass 社会 歴史』 新学社『学習の達成』（バラテスト）			

年間指導目標					

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第4章 近世の日本 第1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 第2節 江戸幕府の成立と対外政策 第3節 産業の発達と幕府政治の動き	ヨーロッパ人との出会い 織田信長・豊臣秀吉による統一事業 兵農分離と秀吉の対外政策 桃山文化 江戸幕府の成立と支配の仕組み さまざまな身分と暮らし 貿易振興から鎖国へ 鎖国下の対外関係 琉球王国やアイヌ民族との関係 農業や諸産業の発展 都市の繁栄と交通路の整備	第4章第1節 1 中世ヨーロッパとイスラム世界～3 ヨーロッパ世界の拡大は除く。
	後半	第3節 産業の発達と幕府政治の動き 第5章 開国と近代日本の歩み 第2節 欧米の進出と日本の開国 第3節 明治維新	幕府政治の安定と元禄文化 享保の改革と社会の変化 田沼意次の政治と寛政の改革 新しい学問と化政文化 外国船の出現と天保の改革 欧米のアジア侵略 開国と不平等条約 開国後の政治と経済 江戸幕府滅亡 新政府の成立 明治維新の三大改革 富国強兵と文明開化	第5章第1節 欧米における近代化の進展は除く
2学期	前半	第3章 日本の諸地域 1節 九州 2節 中国四国 3節 近畿	九州地方、中国四国地方、近畿地方の自然環境・文化・産業等	
	後半	4節 中部 5節 関東 6節 東北地方 7節 北海道	中部地方、関東地方、東北地方、北海道の自然環境・文化・産業等	
3学期		第5章 開国と近代日本の歩み 第3節 明治維新 第4節 日清・日露戦争と近代産業	近代的な国際関係 国教と領土の確定 領土をめぐる問題の背景 領有の歴史的な経緯 自由民権運動の高まり 立憲制国家の成立 欧米列強の侵略と要約改正 日清戦争 日露戦争 韓国と中国 産業革命の進展 近代文化の形成	

評価方法	定期試験を中心に課題レポートの内容・授業態度などを鑑み、総合的に評価する。
学習方法	授業用プリントを活用し、内容を補足しながら進めていく。 補助教材を活用し、定期テスト等での得点力を養成する。
注意事項	
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材『iワーク』、『中学 Win Pass 社会 歴史』の利用や、Classiなどのツールも活用し、学習に遅れの出ないようにする。具体的な方法については、その都度担当教諭から伝達。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中3		社会		4
教科書			補助教材		
東京書籍『新編 新しい社会 歴史』			文理『中学 WinPass 社会 歴史』		
東京書籍『新編 新しい社会 公民』			教育開発出版『Keyワーク 公民3年』		

年間指導目標

私たちが生きる現代社会を概観し、学ぶことで公民分野への関心を高め、地理的分野、歴史的分野との関連を図るとともに、現代社会を多面的・多角的に考察する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第5章 二つの世界大戦と日本 第1節 第一次世界大戦と日本 第2節 政党政治の発展と大衆文化 第3節 ファシズムの動きと日中戦争 第4節 第二次世界大戦と戦時下の人びと	第一次世界大戦と日本 ロシア革命／大戦後の世界 民族運動の高まり 大正デモクラシーと政党政治の発展 社会主義運動とその取り締まり 植民地の動向と国外の日本人 都市化と文化の大衆化 民主主義と国際協調のゆらぎ 恐慌の影響と政党政治のゆきづまり 満州事変と軍部の政治介入 日中戦争と戦時体制 第二次世界大戦のはじまり アジア・太平洋地域の戦争 占領地と植民地のうごき 戦時下の民衆生活 第二次世界大戦の終結	
	後半	第1章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み 2節 様々な国際問題 3節 これからの地球社会と日本 第1章 現代社会と私たちの生活	国際社会における国家と国際連合の機能 地域主義の動きと新興国の台頭 地球環境・資源・貧困・戦争の問題	第1章は、大きく取り扱う
2学期	前半	第2章 個人の尊厳と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障 第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治	立憲主義・国民主権・平和主義 基本的人権の保障と国民の義務 新しい人権 民主主義と政治（選挙・政党）	
	後半	2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち 第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済	国会・行政・司法の仕組みと機能 地方自治の仕組みと機能 契約と消費生活 資本主義経済と企業	
3学期		2節 生産と労働 3節 価格の動きと金融 4節 政府の役割と国民の福祉 5節 これからの経済と社会	労働者の権利 市場経済の仕組みと金融の機能 財政の仕組みと機能 社会保障制度 グローバル化する日本経済	

評価方法	定期試験を中心に、課題レポートの内容・授業態度などをくわえ総合的に評価します。
学習方法	中学社会を学ぶスタートとなる学年です。基本的な学習習慣を身につけることが大切です。あらかじめ学習する箇所を教科書で予習してください。ていねいに読んで、わからないところに印をつけます。そのうえで授業を受けてください。かならずノートを用意し、板書を中心に大事と思われることがらを書いて、あとで復習します。
注意事項	授業の受け方、定期試験というテストのあり方など、わからない人も多いかと思います。担当者がそのつと説明します。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材をつかって、自宅学習をします。学習する箇所は、Classi等を通じて連絡します。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	1		地歴	歴史総合	2
教科書			補助教材		
歴史総合 実教出版			歴史総合演習ノート 実教出版		

年間指導目標

18世紀から現在までの近現代史を通して、「世界とそのなかの日本」を学ぶ。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2. 江戸時代の生産・流通と諸改革 近世の琉球と蝦夷地 3. 幕政の改革と東アジア世界 4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5. フランス革命とウィーン体制 6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7. オスマン帝国の衰退とロシア 8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9. 江戸幕府の滅亡	<ul style="list-style-type: none"> 17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解する。 18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における生産と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。
	後半	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章 帝国主義の時代	10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一 11. 明治政府の諸改革 12. 日本のアジア外交と国境問題 13. 自由民権運動と大日本帝国憲法 14. 帝国主義の時代へ 15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16. 日清戦争後の東アジア 17. 日露戦争と東アジアの変動 18. 日本の産業革命	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策、日本と欧米諸国の外交関係などを基に、19世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解する。 19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアの政治と社会を理解する。
2学期	前半	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	19. 第一次世界大戦 20. ロシア革命とソ連の成立 21. 米騒動と大正デモクラシー 22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23. アジアの民族運動 民族資本の形成と影響 - インドの事例から考えよう - 24. 第一次世界大戦後の欧米諸国 25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
	後半	第6章 経済危機と第二次世界大戦	26. 世界恐慌と各国の対応 27. ファシズムの時代 28. 満洲事変と軍部の対立 29. 日中戦争と戦時体制 30. 第二次世界大戦の勃発 31. 第二次世界大戦の終結 32. 国際連合の成立と冷戦 33. 日本占領と日本国憲法 34. 朝鮮戦争と日本	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。
3学期		第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界	35. 植民地の独立 36. 米ソ両陣営の動揺 37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長 39. 緊張緩和から冷戦の終息へ 40. 日本の経済大国化 41. 地域紛争と対立	<ul style="list-style-type: none"> 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、

		42. 国際秩序の変容	<p>世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油危機，アジアの諸地域の経済発展，市場開放と経済の自由化，情報通信技術の発展などを基に，市場経済の変容と課題を理解している。冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に，冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ・歴史的経緯を踏まえて，現代的な諸課題を理解する。
--	--	-------------	--

評価方法	定期試験による。小テスト、授業中の課題、演習ノートの提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	<p>授業を聞き、演習ノートを完成させる。</p> <p>授業中に出された問いや課題に主体的に取り組む。</p> <p>授業後に、インターネットコンテンツ等も利用して、復習する</p>
注意事項	日本史探究や世界史探究を受験科目として考えている者は、歴史総合を通じてどちらを選択するかよく考えてほしい。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	Classi等を通じて配信します。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校1年		公民	公共	2
教科書		補助教材			
実教出版 『詳述 公共』		実教出版 『2022 新政治・経済資料』 実教出版 『詳述公共 マイノート』			

年間指導目標

資料集を活用しながら「政治経済」部分を中心に展開し、公共を土台として政治経済のセンター入試問題にも対応できるようにレベルを目標にする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	第1編 公共の扉 “第1章 社会を作る私たち” 1. 生涯における青年期の意義 2. 青年期と自己形成の課題 3. 職業生活と社会参加 4. 現代社会と現代の生き方 “第2章 人間としてよく生きる” 1. ギリシアの思想 2. 宗教の教え 3. 人間の尊重 4. 人間の自由と尊厳 5. 個人と社会 6. 主体性の確立 7. 他者の尊重 8. 公正な社会 “第3章 社会とは何か” 1. 人間の尊厳と平等 2. 自由・権利と責任・義務 “第4章 民主国家における基本原理” 1. 人権保障の発展と民主政治の成立 2. 国民主権と民主政治の発展	<ul style="list-style-type: none"> 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 個人の自由や権利がどのように認められるのかを理解する。 自由・権利と責任・義務の関係が将来世代の問題としても考えられることを理解する。 民主政治の誕生と発展について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、理想的な人間の生き方についての先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとしている。 青年期の意義や特徴への深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。 古代ギリシアからはじまる、民主政治の歴史的な展開を理解させる。 法の支配や基本的人権が近代憲法の基礎をなす基本原理であることに着目させる。 民主政治が課題をもつ政治制度でもあることに着目させる。
	後半	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち “第1章 日本国憲法の基本的性格” 1. 日本国憲法の成立 2. 平和主義とわが国の安全 3. 基本的人権の保障 4. 人権の広がり “第2章 日本の政治機構と政治参加” 1. 政治機構と国民生活 2. 人権保障と裁判所 3. 地方自治 4. 選挙と政党 5. 政治参加と世論	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権の歴史的発展について理解する。 民主政治の意義と課題について理解する。 議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。 国会と内閣の構成や官主導社会とその課題について理解する。 司法権の独立や裁判について理解する。 地方自治の本旨について理解する。 各選挙制度の特徴と課題について理解する。 政治参加の課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて、日本国憲法の特徴を理解させる。 自衛権に関する政府解釈が変化していることに着目させる。 憲法で保障されているさまざまな権利について、具体的な判例を通じて理解させる。 p.110の図1を活用して、日本の権力分立がどのようになっているかを視覚的に理解させる。
2 学期	前半	“第3章 現代の経済社会” 1. 経済社会の形成と変容 2. 市場のしくみ 3. 現代の企業 4. 経済成長と景気変動 5. 金融機関の働き 6. 政府の役割と財政・租税 “第4章 経済活動のあり方と国民福祉” 1. 日本経済の歩みと近年の課題 2. 中小企業と農業 3. 公害防止と環境保全 4. 消費者問題 5. 労働問題と雇用 6. 社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済が成立、発展してきた時代背景を確認する。 市場経済の機能と限界を理解する。 国富について理解するとともに、経済成長、景気循環、物価について理解する。 現代の経済社会における金融の意義や役割を理解する。 中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国家の経済への介入や世界経済との一体化など、20世紀以降進展した資本主義経済の変容を理解させる。 市場経済の機能と限界について具体的事例を通じて多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする。 市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解させる。 金融の仕組みと働きを考えさせる。
	後半	“第5章 国際政治の動向と課題” 1. 国際社会における政治と法 2. 国家安全保障と国際連合 3. 冷戦終結後の国際政治 4. 軍備競争と軍備縮小 5. 異なる人種・民族との共存 6. 国際平和と日本	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に考える。 人口減少社会が経済に与える影響を考える。 経済成長と公害問題との関係を考える。 持続可能な社会をめざすためのさま 	<ul style="list-style-type: none"> 本節の内容は歴史総合でも扱うため、統計資料によって成長や停滞の背景を理解させる これからの経済社会については労働・社会保障の節とも関連させて理解

			<p>ざまな制度や取り組みについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな問題があることを理解する。 ・必要な法整備と消費者の責任について考える。 ・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。 ・日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 ・諸外国の制度との比較も含めて考える。 ・少子高齢化が進行する中で、望ましい制度のあり方を検討する。 ・国内政治や国内法との比較で考える。 <p>・領土問題が生じる背景と望ましい解決方法について考える。</p> <p>・主要機関や専門機関の働きから考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくに安保理改革を材料に考える。 ・対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考える。 ・大国の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考える。 <p>・冷戦による対立構造と安全保障のシレンマを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核兵器禁止条約の採択に向けた動きを参考に考える。 ・ナショナリズムや自民族中心主義との関係から考える。 ・さまざまな権利保障の制度や取り組みについて理解する。 ・とくにアジア諸地域の信頼回復の経緯を確認する。 ・人間の安全保障の観点から考える。 	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業について、持続可能性が問われている現状を理解させる。 ・公害問題は基本的人権との関係でも課題であることを理解させる。 ・消費者問題が続くなか、消費者行政が保護から自立へと変化していることを理解させる。 ・日本的雇用形態の崩壊や雇用の流動性が強まるなかで、労働のあり方が問い直されていることを理解させる。 ・国際社会には世界政府のような存在がないため、国際社会においては各国の力関係がものをいうパワーポリティクスに陥りやすいことを理解させる。 ・しばしば大国間の利害対立によって意思決定が阻害されている現状を理解させる。 ・冷戦期以降の国際政治情勢について、対立する主体に注目して理解させる。 ・大国のナショナリズムによって新たな対立が生じている現状を理解させる。 ・核の保有国と非保有国の意見の相違と国力の関係などについて、多面的に検討させる。
3 学期	<p>“第6章 国際経済の動向と課題”</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際経済のしくみ 2. 国際経済体制の変化 3. 経済のグローバル化と金融危機 5. ODAと経済協力 <p>第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比較生産費説を検討して考える。 ・具体的な事例を基にして貿易や為替相場の動向が日本経済に与える影響を考える。 ・本文や図版資料を基に、歴史的な経過を確認する。 ・ヒト・モノ・カネが自由に移動した結果、世界はこれまで以上に緊密化したことを確認する。 ・各地域の状況や生じている課題を確認する。 ・中国をはじめとする新興国の動向を確認する。 ・ODAからSDGsにつらなる援助と開発の過程について確認する。 ・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、現実社会の諸課題を探究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円高と円安が日本経済に及ぼす影響について、具体的な貿易を想定して理解させる。 ・通貨や貿易体制の枠組みを規定したIMF・GATT体制と、その変容の歴史を理解する。 ・経済のグローバル化がもたらしたメリットとデメリットを、それぞれ理解させる。 ・貧困や格差が解消されていない現状と、その解決が国際的な目標となっていることを理解させる。 	
評価方法	<p>原則として「評価法」通り定期試験により評価する。ただし、必要に応じて課題レポートを課し、平常点の範囲内で加算する場合もある。 新課程であるため、ループリック法による評価も試みる。</p>			
学習方法	<p>座学中心の授業展開。資料集を多用し、『現代社会』の内容よりも踏み込んで学習する。補助教材（マイノート）を活用し、板書時間を圧縮することで「共同的な学び」の時間を設けられるようにする。</p>			
注意事項	<p>座学中心なので、生徒が興味を失わないように実際の社会の出来事を取りあげ、より現実的に理解できるように工夫をする。資料集や補助教材を使って授業を展開し、その内容は、受験で『政治・経済』を選択する生徒を意識した内容とする。</p>			
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	<p>資料集を使って休暇中の範囲を「マイノート」を使ってまとめる。 2単位なので、休養中の負担は少ないと判断する。</p>			

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	2		地歴	地理総合	2
教科書			補助教材		
地理総合 実教出版			地理総合演習ノート 実教出版		

年間指導目標

地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めさせる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	1.球面と平面 2.緯度と経度 3.日常生活のなかの地図 4.国家の領域 5.日本の位置と領域 6.国家間の結び付き 7.モノ・人・情報のグローバル化 8.世界の交通、物流と日本 9.観光のグローバル化	・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解させる。 ・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現させる。
	後半	第2編 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	グループ1 自然環境と生活文化 グループ2 産業の進展によって変化する生活文化	・世界の人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことについて理解させる。
2学期	前半		グループ3 宗教に基づいた生活文化 グループ4 国家・民族・言語の結び付きと生活文化	・各地域の諸課題と宗教との関係を考える。 ・多様な民族や言語の存在およびその分布について考える。
	後半	第2章 地球的課題と国際協力	グループ5 移民とともに形成された生活文化 1.人口問題の展開と対策 2.アンバランスな人口分布 3.食料問題の要因と解決に向けた課題 4.食料問題への取り組み 5.都市・居住問題 6.エネルギー資源の開発と限界 7.新たなエネルギー資源への取り組み 8.地球環境問題：地球温暖化 9.様々な場所で発生する地球環境問題 10.地球的課題の解決に向けた国際協力	・移民国家がどのように形成されてきたか考える。 ・人口増加の問題を、世界的な視野で考える。 ・食料問題の要因を考えるとともに、発展途上国と先進国の食料問題の違いを考える。 ・食料問題に対する世界の取り組みより、その重要性を考える。 ・発展途上国と先進国の都市問題の違いを考える。 ・エネルギー資源の歴史を振り返るとともに、今後のエネルギー開発について考える。
3学期		第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然災害と防災	1.日本の自然環境 2.地震・津波 3.地震・津波への対策 4.火山災害と対策 5.風水害 6.風水害への対策 7.雪害・高温と対策 8.防災・減災への取り組み	・自然災害と日本の自然環境の関係性を考える ・地震と津波の関係性を考える。 ・自然災害による被害を軽減するための取り組みについて考える。
		第2章 地域調査		・地域調査の適切な進め方を考える。 ・調査結果の分析方法について考える。

評価方法	定期試験による。小テスト、授業中の課題、演習ノートの提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	授業を聞き、演習ノートを完成させる。 授業中に出された問いや課題に主体的に取り組む。 授業後に、インターネットコンテンツ等も利用して、復習する
注意事項	
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	Classi等を通じて配信します。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	2	日大進学	公民科	政治経済	2
教科書		補助教材			
実教出版「詳述政治・経済」		実教出版「新政治・経済資料」 実教出版「演習ノート」			

年間指導目標

基礎学力到達度テストで標準化得点60点平均を目標に、「共通テスト」や「基礎学力到達度テスト」等での得点力を身に付けられるような授業展開にする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	第一編現代日本の政治 第1章民主政治の基本原理 1 政治と法 2 民主政治と人権保障の発展 3 国民主権と民主主義の発展 4 世界の政治制度 第2章日本国憲法の基本的性格 1 日本国憲法の成立 2 平和主義	政治が行われる場である国家とは、どのような制度だろうか。 法にはどのような意義と役割があるのだろうか。 民主政治はどのように誕生したのだろうか。 民主政治の意義と課題は何だろうか。 民主政治の諸原理は、各国の政治制度にどのように反映されているのだろうか。 大日本帝国憲法と日本国憲法にはどのような違いがあるだろうか。 日本の安全保障体制はどのように展開してきたのだろうか。	政治が自分たちとは無関係な出来事ではないことに気づかせる。 近代以前からはじまる、民主政治の歴史的な展開を理解させる。 民主政治が課題をもつ政治制度でもあることに着目させる。 図版資料を活用して、各政治制度の特徴を理解させる。 大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて、日本国憲法の特徴を理解させる。 自衛権に関する政府解釈が変化していることに着目させ、世界情勢の変化と安全保障体制の変化の関連について理解させる。
	後半	3 基本的人権の保障 4 人権の広がり 第3章日本の政治機構 1 立法 2 行政 3 司法	日本国憲法の人権保障はどのような内容になっているだろうか。 現在、憲法に規定すべき人権保障として、どのようなものが求められているだろうか。 国会はどのように構成されているのか。 衆参両院の構成と衆議院の優越について理解する。 議院内閣制の下で、内閣はどのような権限をもつのか。 司法はどのような役割をもっているのだろうか。	憲法で保障されているさまざまな自由権について、具体的な判例を通じて理解させる。 社会が変化するなかで重視されるようになったさまざまな権利の内容を理解させる。 日本の権力分立がどのようになっているかを視覚的に理解させる。 議院内閣制についてと内閣の構成について理解させる。 違憲審査権の意義についてと裁判員制度について理解させる。
2 学期	前半	4 地方自治 第4章現代日本の政治 1 戦後政治の歩み 2 選挙制度 3 政治参加と世論 第二編現代日本の経済 第1章経済社会の変容 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容 第2章現代経済のしくみ 1 市場機構	「地方自治の本旨」とはどのようなものだろうか。 日本の政党政治はどのように推移してきたのだろうか。 日本の選挙制度にはどのような種類があるのだろうか。 マス・メディアやSNSは政治にどのような影響を与えているのだろうか。 経済活動とは、どのようなものを指すのか。 資本主義経済はどのような特徴を持ち、それを支える経済的思想はどのようなものだったのだろうか。 市場では価格をシグナルとして、どのように需要量と供給量が調整され、効率的に資源配分されるのだろうか。	地方自治における議会、首長、住民の関係について視覚的に理解させる。 戦後日本の政党政治の展開を理解させる。 各選挙制度の特徴に着目させ、1票の価値については、その是正方法なども多面的に考察させる。 SNSなどのインターネットが世論形成に与える影響について、具体的な事例を通じて理解させる。 機会費用やトレードオフ・機会費用については、具体例をもとに理解させる。 国家の経済への介入や世界経済との一体化など、20世紀以降進展した資本主義経済の変容を理解させる。 市場経済の機能と限界について多面的・多角的に考察、表現できるようにする。

<p style="text-align: center;">後半</p>	<p>2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ</p> <p>第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生</p>	<p>企業にはどのような形態のものがあるのだろうか。</p> <p>国家の経済活動の規模を表す指標にはどのようなものがあるか。</p> <p>金融機関は経済主体間の資金の融通をどのようにおこなっているのだろうか。</p> <p>政府の経済活動である財政にはどのような役割があるのだろうか。</p> <p>日本経済はどのような変化をとげてきたのだろうか。</p>	<p>企業の社会的な役割や社会的責任を理解させ、社会の変化に応じた課題について理解させる。</p> <p>国家の経済活動の規模をあらわし、経済の動きの指標としてのGDP、国富、景気変動、物価について、身近な視点も含めて理解させる。</p> <p>金融の仕組みと働き、金融市場、信用創造、中央銀行の役割や金融政策の内容を革新的な金融サービスを提供する動き、キャッシュレス社会の進行、仮想通貨など身近な生活の視点から考えさせる。</p> <p>政府の経済政策には、効率と公正の確保、経済成長と環境保全の追求など相互に対立する可能性のある目標の実現を調整する必要があることや、公平・中立・簡素の条件を満たすことが税制を構築する上で重要であることを理解できるようにする。</p> <p>単なる歴史的事象の確認にとどまらず、それらが現在の日本経済の課題にどのようにかかわっているかを意識させる。</p>
<p style="text-align: center;">3 学期</p>	<p>2 日本の中小企業と農業 3 国民のくらし 4 環境保全と公害防止 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割</p>	<p>中小企業とは何か。大企業とはどのような点で違いがあるのだろうか。</p> <p>消費者問題にはどのようなものがあるだろうか。</p> <p>公害が発生する基本的な原因はどこにあるのか。</p> <p>職場環境や労働者の諸権利に関して、どのような課題があるだろうか。</p> <p>日本の社会保障制度のしくみは、どのようなになっているだろうか。</p>	<p>中小企業について、持続可能性が問われている現状を理解させ、創意工夫によって成長を遂げている中小企業のあり方や実例を理解させる。</p> <p>消費者問題が続くなか、消費者行政が保護から自立へと変化していることを理解させる。</p> <p>公害問題は基本的人権との関係でも課題であることを理解させる。</p> <p>労働契約の特性、労働法による労働者の権利保護の状況について理解させる。</p> <p>社会保障がなぜ必要とされてきたのかを、社会保障の歴史をたどることで理解させる。</p>

<p style="text-align: center;">評価方法</p>	<p>定期試験及び単元テスト・課題の提出状況で評価します。</p>
<p style="text-align: center;">学習方法</p>	<p>教科書・資料集で基本事項の理解に努め、演習により広範な知識の定着をはかる。</p>
<p style="text-align: center;">注意事項</p>	<p>難解な内容が多く見受けられますが、学習した単元を一つ一つ確実に身につける地道な努力を促す。</p>
<p style="text-align: center;">インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題</p>	<p>適宜指示する。</p>

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校2年	日大進学文系	公民	倫理	2
教科書		補助教材			
実教出版 『詳述 倫理』		浜島書店 『最新図説 倫理』			

年間指導目標

高校3年次に「倫理・政治経済」で統一テストを受験する生徒を対象とし、「共通テスト」や「基礎学力到達度テスト」に対応できる学力養成を視野に入れた授業展開をする。高3で演習をより多く展開するためにも、出来るだけ進める。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章 青年期の課題と自己形成 1 よく生きることを求めて 2 青年期の課題 第2章 人間としての自覚 1 ギリシャ思想の展開	1 自然哲学とソフィスト 2 ソクラテス	○青年期特有の不安を、客観的に理解する。 ○青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉える。 ○古代ギリシアの、自然哲学の誕生を通して、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。 ○ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。
	後半	2 キリスト教 3 イスラーム	3 プラトン 4 アリストテレス 5 ギリシャ思想の展開 1 ユダヤ教の世界 2 イエス 3 キリスト教の発展	○理想主義であるイデア論の特徴を理解する。 ○アリストテレスの自然観、および道徳論・国家論を学ぶ。 ○キリスト教の形成を学習し、一神教の特徴を理解する。 ○神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。 ○パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。 ○キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解する。
2学期	前半	4 仏教 5 中国思想	1 インドの思想文化 2 ブッダの教え 3 仏教思想の展開 1 中国の思想文化 2 儒家の思想 3 道家の思想	○仏教が自己形成の実践であることを理解する。 ○ブッダの縁起説や無我の法について学習する。 ○日本思想の伝統となる、大乘仏教の特徴を理解する。 ○孔子の説く人倫の道の特徴を理解し、漢字文化圏に共通する家族主義道徳について考える。 ○儒教的人間観および世界観の特徴を理解する。 ○老荘思想の「道」の捉え方を学習する。
	後半	第4章 現代に生きる人間の倫理 1 人間の尊厳 2 近代の科学革命と自然観 3 自由で平等な社会の実現	1 ルネサンスと宗教改革 2 人間性の探求(モラリスト) 1 近代の科学革命 2 経験論と合理論 3 近代化学と社会の進歩 1 社会契約説の思想	○ルネサンスが、近代のヒューマニズムへと展開したことを理解する。 ○宗教改革が西欧近代社会形成の重要な契機となったことを理解する。 ○モラリストの思想と理性主義へのパスカルの批判を考える。 ○近代科学および機械論的自然観の特徴を理解する。 ○近代科学の発展に大きな影響を与えたベーコンとデカルトの思想の特徴を理解する。 ○実証主義や社会進化論の特徴を理解する。 “ ○民主社会を形成する基本原理を、自然法思想や社会契約論の展開から理解する。”

3学期	4 人間性の回復と主体性の確立	2 人格の尊厳と自由－カント 3 人倫と自由の実現－ヘーゲル 4 功利主義の思想 1 社会主義の思想 2 実存主義の思想 3 プラグマティズムの思想	○自律を人格の尊厳の根拠とするカントの思想を学習し、近代の人間尊重の精神を理解する。 ○ヘーゲルの弁証法的なものの見方、および弁証法の論理に基づく「人倫」の捉え方を理解する。 ○功利主義思想の特徴を理解し、功利主義と民主主義との関係や、個性の自由について考える。 ○社会主義思想およびマルクスの人間観・社会観を学習し、現代の精神的貧困について考える。 ○キルケゴールの単独者やニーチェの超人の思想を学習し、主体的自己の確立について考える。また実存思想を学習し、自由な内面的自己を確立する意義と、人類に責任を負う生き方を考える。 ○プラグマティズムの思想の特徴を理解する。
-----	-----------------	---	--

評価方法	定期試験
学習方法	過去問題を数多く解くことにより各自の「穴」を見つけ、その部分を復習・強化していく。
注意事項	漫然と過去問題を解くということにならないよう、時間をはかり、集中力を高めつつ効率良い演習を心がける。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	演習問題を解き、その解説をレポートにまとめる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高2	日大クラス	地歴	日本史探求	4
教科書		補助教材			
『詳説 日本史』 山川出版社		帝国書院『図説 日本史通覧』 浜島書店『要点整理 ゼミナール 日本史』 山川出版社『日本史用語集』 担当者作成プリント			

年間指導目標

2年間かけて日本の通史を学ぶ。あわせて基礎学力到達度テストに対応できる学力の養成をめざす。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳文化の展開 飛鳥の朝廷 律令国家への道	<ul style="list-style-type: none"> 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 大陸から伝搬した稲作文化の特色を理解し、弥生文化の形成を考察する。 ヤマト政権による国家形成の過程を東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 律令国家の形成過程とその完成を、律令体制を多面的にとらえ考察する。
	後半	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> 平安初期の古代国家を、律令体制の変容と摂関政治とあわせて理解する。 地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質と荘園の拡大をもたらした過程を考察する。 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。
2学期	前半	第2部 中世 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	院政の始まり 院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成長の過程を考察する。 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を理解する。 蒙古襲来による政治・経済・社会への影響が幕府衰退の一因となったことを理解する。
	後半	第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長	鎌倉文化 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の登場	<ul style="list-style-type: none"> 南北朝動乱から室町幕府の成立と安定について、あわせて庶民が台頭した点を考察する。 武家・両文化、及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。
3学期		第3部 近世 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造	<ul style="list-style-type: none"> 応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名について、その地理的条件と関連させて理解する。 ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 徳川氏による幕府設立および幕藩体制確立の過程を理解する 幕藩体制を支えた社会構造の特色を理解する。

評価方法	定期試験・小テストに平常点を加え評価する。
学習方法	担当者の指示にしたがって、教科書の該当箇所を予習する。基本事項の確認については、補助教材を活用し、その定着を図る。 授業では、歴史的事象の時代背景・相互関連を含め解説するので、教科書および担当者作成プリントを用いて、復習に努めてほしい。
注意事項	特になし
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	家庭学習において、進度に見合った学習を、自ら教科書、問題演習プリントを使って行う。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	2	日大	社会	日大進学 文系世界史探究	4
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社 ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 ゼミナール世界史 浜島書店			

年間指導目標

高校1年で学んだ歴史総合の知識を踏まえて、古代から近代までの世界史を学習し、高校3年で学習する近現代史を理解するための基礎知識を養成する。また、受験に向け既習事項を復習する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1章 文明の成立と古代文明の特質	文明の誕生 古代オリエント・南アジア文明 中国・アメリカの古代文明	古代文明の特質や文明を比較したときの相違点・共通点を考え、理解する。また、文明のなりたちや発展がその後の歴史にどのような影響を及ぼしていくかを考えていく。
		第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	中央ユーラシア、秦・漢帝国 中国の動乱と変容 東アジア文化圏の形成	
	後半	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	仏教の成立、南アジアの統一国家 東南アジア世界の展開と形成	ギリシアのポリス世界、ローマ帝国による地中海世界の統一が西洋史の出発点となったことを理解する。歴史地図等を用いて地理的に把握する。
		第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	イラン諸国家の文明 ギリシア・ローマの世界 キリスト教の成立	
2学期	前半	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ヨーロッパ世界の形成	アラブ民族の動向を踏まえながら、ヨーロッパ全体がどのような歴史をたどっていったかを把握する。プリントを用いて、イスラーム史を概観させる。
		第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	イスラーム教の諸地域への伝播 西アジアの動向	
	後半	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	西ヨーロッパの封建社会と展開 東ヨーロッパ世界の展開 西ヨーロッパ世界の変容 西ヨーロッパの中世文化	ゲルマン人の大移動が中世ヨーロッパを創始したことをふまえながら、封建社会のありようと、西ヨーロッパと東ヨーロッパの世界を比較し、地理的な視点から考察する。モンゴル帝国によりユーラシア大陸が一体となることを理解する。
		第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	アジア諸地域の自立化と宋 モンゴルの大帝国	
3学期	第9章 大交易・大交流の時代	アジア交易世界の興隆	大航海時代（経済・社会面）・ルネサンス（文化面）・宗教改革（宗教面）が近代ヨーロッパ始まりとなったことを理解させる。近代ヨーロッパの主権国家体制が今日の国際関係の端緒を形成していく課程を概観させる。西洋史中心の見方にとらわれないように注意する。	
	第10章 アジア諸帝国の繁栄	ヨーロッパの進出、アメリカ大陸の変容 オスマン帝国・サファヴィー朝 ムガル帝国・清代の中国		
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、西欧の台頭		

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	初めて学ぶことが多いと思われるので、授業後の復習が大切である。その際、授業内容を踏まえて教科書を精読し、補助教材を用いて問題演習をする。できなかったところを再び教科書やノートに戻って復習する。これを繰り返すことにより知識の定着を図ってほしい。
注意事項	近代に関しては西洋史だけでなく、明・清代の中国史及びオスマン帝国・ムガル帝国などの東洋史も扱う。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	『詳説世界史10分間テスト』の既習の範囲をノートにやる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校2年	難関大	地理歴史	日本史探求	4
教科書		補助教材			
『詳説 日本史』 山川出版社		帝国書院『図説 日本史通覧』， 山川出版社『日本史用語集』， 同『日本史総合テスト』， 同『日本史史料集』			

年間指導目標

2年間で日本の全史を学ぶ。他大学受験を念頭に置き，入試に十分に対応できる学力の育成をめざす。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳文化の展開 飛鳥の朝廷 律令国家への道	<ul style="list-style-type: none"> ・人類文化の発生を考え，日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・大陸から伝搬した稲作文化の特色を理解し，弥生文化の形成を考察する。 ・ヤマト政権による国家形成の過程を東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ・律令国家の形成過程とその完成を，律令体制を多面的にとらえ考察する。
	後半	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> ・平安初期の古代国家を，律令体制の変容と摂関政治とあわせて理解する。 ・地方統治体制の崩れへの対応が，公領支配の変質と荘園の拡大をもたらした過程を考察する。 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて，院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・鎌倉幕府の成長の過程を考察する。
2学期	前半	第2部 中世 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	院政の始まり 院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の生活と地方支配を通じて，土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握した過程を理解する。 ・蒙古襲来による政治・経済・社会への影響が幕府衰退の一因となったことを理解する。 ・南北朝動乱から室町幕府の成立と安定について，あわせて庶民が台頭した点を考察する。
	後半	第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長	鎌倉文化 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の登場	<ul style="list-style-type: none"> ・武家・公家両文化，及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 ・応仁の乱以降，地方権力として登場した戦国大名について，その地理的条件と関連させて理解する。
3学期		第3部 近世 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・徳川氏による幕府設立及び幕藩体制確立の過程を理解する。 ・江戸幕府の安定期について，「平和と秩序」の確立の視点で考察する。 ・幕藩体制安定期の農業・商工業の発展について，相互関連や社会的役割を踏まえ考察する。 ・町人文化の形成を，町人の社会的台頭と関連させて理解する。

評価方法	定期試験と小テストをもとに総合的に評価する。
学習方法	近年，多くの大学の入試問題は，日本史においても難問・奇問が減り，各時代の総合的な理解ができているか，政治や社会等，各分野の歴史的な変遷が把握できているかを問うものが主流となっている。したがって，教科書を用いて予習を行ない，疑問に思う個所を明らかにして授業に臨むことが要求される。授業は，歴史の流れを把握することに主眼を置く。そのために必要な重要事項を効率よく整理し，提供することを心がけるつもりである。授業後，補助教材を使って，実践的な課題を出す。
注意事項	歴史を学ぶ上で何より大切なのは，歴史の流れを「大きくつかんで，細かく押さえる」ことである。やみくもに歴史用語を暗記するのではなく，歴史事象の因果関係あるいは変化を，常に意識して学習する態度が必要とされる。授業で，「流れ」をつかみ，復習のための課題演習を通じて，重要事項の定着をはかってほしい。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の該当箇所を適宜指示する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校3年	日大	地歴	日本史B	4
教科書		補助教材			
山川出版社『詳説 日本史B』		帝国書院『図説 日本史通覧』，山川出版社『改訂版 日本史B用語集』，同『詳説日本史10分間テスト』，浜島書店『要点整理 ゼミナール日本史』，担当者作成プリント			

年間指導目標

「日本大学基礎学力到達度テスト」に十分対応できる学力の育成を行うとともに、高校2年次からの日本史学習の仕上げを目標とする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第3部 近世 第7章 幕藩体制の展開	幕政の安定 経済の発展 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> ・農村・都市の変容により幕藩体制が動揺し、幕府や諸藩が実施した改革の意義と影響を考察する。 ・欧米諸国のアジア進出とそれに対する幕府の対応を考察し、幕府が衰退に向かう過程を理解する。 ・洋学や国学、新たな展開を見せる文学・芸能・美術を社会の変容と関連付けて考察する。
	後半	第8章 幕藩体制の動揺	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> ・農村・都市の変容により幕藩体制が動揺し、幕府や諸藩が実施した改革の意義と影響を考察する。 ・欧米諸国のアジア進出とそれに対する幕府の対応を考察し、幕府が衰退に向かう過程を理解する。 ・洋学や国学、新たな展開を見せる文学・芸能・美術を社会の変容と関連付けて考察する。
2学期	前半	入試問題演習 第9章 近代国家の成立	基礎学力到達度テスト対策 開国と幕末の動乱	<ul style="list-style-type: none"> ・開国までの経緯を、日本を国際社会に組み込むにいたった国際環境の変化に留意させ理解する。
	後半		明治維新と富国強兵 立憲国家の成立と日清戦争	<ul style="list-style-type: none"> ・明治政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策を通じて、国家的統一過程を理解する。 ・政府による強力な中央集権体制の推進と、自由民権運動への対応の中で、近代国家の基盤が形成される過程を理解する。 ・不平等条約の改正および東アジアへの進出によって、欧米列強と肩を並べていく過程を、諸外国の動向と関連付けて考察する。
3学期				

評価方法	定期試験・小テスト・課題プリントに平常点を加え、評価する。
学習方法	担当者の指示にしたがって、教科書の該当箇所を予習する。基本事項の確認については、用語集・史料集・参考書等を活用する。授業では、歴史的事象の時代背景・相互関連を含め解説するので、問題集を使って復習に努めてください。
注意事項	特になし
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	担当者作成の問題演習プリントを行う。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校3年	日大	地歴	日本史演習	3
教科書		補助教材			
山川出版社 『詳説 日本史B』		担当者作成プリント, 浜島書店 『要点整理 ゼミナール 日本史』, 帝国書院 『図説 日本史通覧』			

年間指導目標

日本大学基礎学力到達度テストに対応できる学力の養成をめざす。従って、演習の範囲は古代から江戸時代終了（幕末を除く）までをまず第一とする。日本大学基礎学力到達度テスト終了後は近現代期の問題演習を行う。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	古代～中世（鎌倉時代前半）	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化 中世社会の成長（3武士の社会まで） （『ゼミナール日本史』1～11）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
	後半	中世（鎌倉時代後半）～近世	中世社会の成長（4蒙古襲来から） 武家社会の成長 幕藩体制の確立 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺 （『ゼミナール日本史』12～25）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
2学期	前半	入試問題演習 到達度テスト後 近現代	基礎学力到達度テスト対策 近代国家の成立 （『ゼミナール日本史』26～28）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
	後半	近現代	近代国家の成立 （『ゼミナール日本史』29～33）	問題演習を通じて知識の確認と習得および実践力の養成を主眼とする。
3学期				

評価方法	定期試験・課題プリント・ノートに平常点を加え、評価する。
学習方法	授業では、補助教材『要点整理 ゼミナール 日本史』を使って学習する。また、放課後補講・夏期講習を適宜行う。
注意事項	自分でも教科書等で調べたことなどを適宜補足して勉強すること。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材『要点整理 ゼミナール 日本史』（浜島書店）の該当箇所を適宜指示。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	3	日大	社会	日大進学 文系世界史B	4
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 詳説世界史スタンダードテスト 山川出版社			

年間指導目標

基礎学力到達度テストで7割得点することを目標に、教科書を中心に世界史の基本事項を習得する。その際、細かな事項にとらわれることなく、歴史の流れを把握することに重点を置く。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン	産業革命以降の近現代史を扱う。前近代の歴史についても、適宜復習する時間を設ける。
	後半	第11章 欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制、ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展	近現代史は諸国間の関係が複雑にからみあうため、年表を常に傍らに置き、10年間隔で歴史事項を整理・理解するよう努める。
2学期	前半	入試問題演習 第12章 アジア諸地域の動揺	基礎学力到達度テスト対策 オスマン帝国の動揺とアラブのめざめ 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動	客観問題、記述問題、論述問題 地図問題など、出題形式に応じた対策・指導を心がける。 各国史、テーマ史、同時代史、文化史など発展的学習にも取り組ませる。
	後半	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動	自由主義、国民主義、社会主義 帝国主義、ファシズムなどの思想・潮流に着目し、各国の歴史に与えた影響を理解する。
		第14章 二つの世界大戦	第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ民族主義の進展 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	
		第15章 冷戦と第三世界の自立 第16章 現代の世界	第二次世界大戦 東西対立の始まりとアジア諸国の自立 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 第三世界の自立と危機 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 冷戦の解消と世界の多極化 社会主義世界の解体と変容 第三世界の多元化と地域紛争	
3学期	卒業前教育			

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	授業内で適宜、文化史・テーマ史なども扱っていく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の問題集を用いて、既習事項を復習する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	3	日大	社会	日大進学 文系世界史演習	3
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 要点整理ゼミナール世界史 浜島書店			

年間指導目標

基礎学力到達度テストで7割得点することを目標とする。高校1・2年で学んだ内容を復習し、問題演習を通じて受験レベルの実践力を養成する。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	序章 先史の世界 第1章 オリエンと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と展開 第5章 ヨーロッパ世界の形成と展開	先史時代 オリエンと、ギリシア、ローマ 古代イラン インド、東南アジア、中国文明 南北アメリカ文明 魏晋南北朝、隋・唐、五代十国 イスラーム史 中世ヨーロッパ史 (『ゼミナール世界史』 1～18)	授業をペースメーカーにして、高1・高2の既習事項を復習させる。
	後半	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制、ヨーロッパの再編 アメリカ合衆国の発展	補充問題プリントを用いるなど、個々人の苦手分野克服のための課題を課し、早期に知識の穴を埋めさせる。
2学期	前半	過去問演習 近現代史	基礎学力到達度テスト対策 19世紀末～20世紀の世界史	基礎学力到達度テストまで 10月以降 DVD「映像の世紀」を使用
	後半			
3学期				

評価方法	定期試験による。授業中の取り組みをもとに平常点を加味する。
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	授業内で適宜、文化史・テーマ史なども扱っていく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の問題集を用いて、既習事項を復習する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校3年	日大進学	公民	政治経済	4
教科書		補助教材			
実教出版 『高校 政治・経済』		とうほう 『ウィニングコンパス 倫理・政経/現代社会の整理と演習』 実教出版社 『新政治・経済資料』、清水書院 『用語集 政治経済』			

年間指導目標

基礎学力到達度テストで標準化得点60点平均を目標に、「共通テスト」や「基礎学力到達度テスト」等の過去問を活用し、得点力を身に付けられるような授業展開にする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 第4章 世界経済と日本	企業と市場機構 国民所得 財政と金融 戦前・戦後の経済史 産業構造の変化 消費者の保護 労働問題 社会保障制度 国際通貨制度 国際経済の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・国民経済の内容を把握する。 ・修正資本主義における積極的な財政・金融政策の内容と問題点を理解する。 ・経済構造の変化と国民生活の変容を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・国際経済体制のあり方を平和維持と関連させて考察する。
	後半	政治分野・経済分野重要事項の学習及び問題の演習	要点のまとめ 日本大学統一テスト過去問題 センター試験過去問題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力到達度テスト及び他大学入試などに向けた学習。
2学期	前半	政治分野・経済分野重要事項の学習及び問題の演習	要点のまとめ 日本大学統一テスト過去問題 センター試験過去問題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力到達度テスト及び他大学入試などに向けた学習。
	後半	演習	学年末テストに向けての総復習	総復習
3学期		現時点では未定		

評価方法	定期試験及び単元テスト・課題の提出状況で評価します。
学習方法	教科書・資料集・用語集で基本事項の理解に努め、演習により広範な知識の定着をはかる。
注意事項	難解な内容が多く見受けられますが、学習した単元を一つ一つ確実に身につける地道な努力を期待します。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	適宜指示する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校3年	日大進学	公民	政治経済演習 (倫理)	3
教科書		補助教材			
実教出版 『高校 倫理』		浜島書店 『最新図説 倫理』、とうほう 『ウィニングコンパス 倫理・政経 / 現代社会 の整理と演習』、清水書院『用語集 倫理』			

年間指導目標

基礎学力到達度テストで標準化得点60点平均を目標に、「センター試験」や「日大統一テスト」等の過去問を活用し、演習に力点を置いた授業展開にする

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第4節 近世日本の思想(2) 第5節 西洋思想の受容と展開	1 民衆の思想 2 国学の形成 3 幕末の思想 1 啓蒙思想と自由民権思想 2 キリスト教の受容 3 国家主義の台頭と 社会主義思想 4 近代的自我の確立 5 近代日本哲学の成立と 超国家主義 6 多様な文化と共生の課題	○朱子学に基づく江戸思想の多様な展開を理解する。 ○古学から国学への展開と、国学による自文化理解の特徴を学習する。 ○洋学の発展と西洋に対する「和魂洋才」の態度について理解する。 ○福沢諭吉や中江兆民の思想とその軌跡を学習する。 ○内村鑑三の思想形成を通して、日本近代化の課題について考える。 ○国家主義や初期社会主義を通じて、日本近代化について考える。 ○夏目漱石の文学や大正デモクラシーの展開を学習する。 ○西田哲学や和辻倫理学の形成と、ファシズムについて考える。 ○自文化理解を学習し、国際社会の中の日本文化の可能性を考える。
	後半	演習	センター試験や統一テストの過去問、用語集	得点力の強化。 基礎力を確かなものにし、高得点より高確率を心がける。
2学期	前半	演習	センター試験や統一テストの過去問、用語集	得点力の強化。 基礎力を確かなものにし、安定した得点率を目指す。
	後半	演習	学年末テストに向けての総復習	総復習
3学期		現時点は未定		

評価方法	定期試験
学習方法	過去問題を数多く解くことにより各自の「穴」を見つけ、その部分を復習・強化していく。
注意事項	漫然と過去問題を解くということにならないよう、時間をはかり、集中力を高めつつ効率良い演習を心がける。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	演習問題を解き、その解説をレポートにまとめる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高3	難関大クラス	地歴	日本史B	4
教科書		補助教材			
『詳説 日本史 B』 山川出版社		担当者作成プリント，帝国書院『図説 日本史通覧』，山川出版社『日本史B用語集』，同『日本史史料集』，同『復習と演習 日本史テスト』，			

年間指導目標

高校2年次からの日本史学習の仕上げを目標とする。なお，他大学受験を念頭に置き，入試に十分に対応できる学力の育成をめざす。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学期	前半	第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化 開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵	<ul style="list-style-type: none"> ・農村・都市の変容により幕藩体制が動揺し，幕府や諸藩が実施した改革の意義と影響を考察する。 ・欧米諸国のアジア進出とそれに対する幕府の対応を考察し，幕府が衰退に向かう過程を理解する。 ・洋学や国学，新たな展開を見せる文学・芸能・美術を社会の変容と関連付けて考察する。 ・開国までの経緯を，日本を国際社会に組み込むにいたった国際環境の変化に留意させ理解する。 ・明治政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業を通じて，国家的統一過程を理解する。
	後半	第10章 二つの世界大戦とアジア	立憲国家の成立と日清戦争 日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民文化の変容と大衆文化 市民文化の変容と大衆文化	<ul style="list-style-type: none"> ・政府による強力な中央集権体制の推進と，自由民運動への対応の中で，近代国家の基盤が形成される過程を理解する。 ・不平等条約の改正および東アジアへの進出によって，欧米列強と肩を並べていく過程を，諸外国の動の動向と関連付けて考察する。 ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義が確立された過程を，産業革命や近代産業の発展に注目して考察する。 ・大戦前後の政治動向と対外政策の推移について，政党政治の発展や日本の中国進出を踏まえて考察する。 ・大戦後，国際協調体制の進展にいたる国際環境の推移を理解する。 ・文化の背景に，労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立があったことを理解する。 ・戦後恐慌から昭和恐慌にいたる国内外の状況について，政治経済の動揺に着目し理解する。
2 学期	前半	第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代	軍部の台頭 第二次世界大戦 占領と改革 冷戦の開始と講和 55年体制	<ul style="list-style-type: none"> ・対外政策の推移を，世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程を踏まえて考察する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争にいたる過程を，大戦との関連を意識しながら考察する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ，占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸政策を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ，連合国による占領が終結し，日本が独立した意味を考える独立後の国内政治について，55年体制の成立から安定した保守政権の成立にいたるまでの過程を理解する。
	後半	第13章 激動する世界と日本 通史終了後問題演習等	経済復興から高度成長へ 冷戦終結と日本社会の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について，経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ・高度成長が終わり，保守政権が動揺する中，国際情勢の変化を踏まえて行なった国内の政治対策について考察する。 ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内状況について，政治・経済・生活文化の面を踏まえて考察する。

3 学期				
------	--	--	--	--

評価方法	定期試験をもとに総合的に評価する。
学習方法	近年、多くの大学の入試問題は、日本史においても難問・奇問が減り、各時代の総合的な理解ができているか、政治や社会等、各分野の歴史的な変遷が把握できているかを問うものが主流となっている。したがって、予習を行ない、疑問に思ふ箇所を明らかにして授業に臨むことが要求される。授業は、歴史の流れを把握することに主眼を置く。そのために必要な重要事項を効率よく整理し、提供することを心がけるつもりである。授業後、副教材を使って、実戦的な課題を出す。
注意事項	歴史を学ぶ上で何より大切なのは、歴史の流れを「大きくつかんで、細かく押さえる」ことである。やみくもに歴史用語を暗記するのではなく、歴史事象の因果関係あるいは変化を、常に意識して学習する態度が必要とされる。授業で、「流れ」をつかみ、復習のための課題演習を通じて、重要事項の定着をはかるように努めてほしい。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の該当箇所を適宜指示する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高3	難関代クラス	地歴	日本史演習	3
教科書		補助教材			
『詳説 日本史 B』 山川出版社		帝国書院『図説 日本史通覧』，山川出版社『日本史B用語集』，同『日本史史料集』，同『復習と演習 日本史テスト』			

年間指導目標

他大学受験を前提に日本史の問題演習を行なう。具体的にはセンター試験，難関大学一般入試に十分対応できる力を養うことが目標となる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	● 原始・古代	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> センター試験に対応するため，過去問を中心に演習を重ねて行なう。
	後半	● 中世	中世社会の成立 武家社会の成長	
2学期	前半	● 近世 幕藩体制の確立期 幕藩体制の展開期 幕藩体制の動揺 幕府の衰退 ● 近代・現代 明治国家の成立期	幕藩体制の確立 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺 幕府の衰退 近代国家の成立 近代日本とアジア	<ul style="list-style-type: none"> あわせて，日大統一テストの過去問も適宜用いてさまざまな出題形式に慣れる。 他大学の入試問題では，分野別テーマ史，通史も多くみられるので，その対策も講じたい。 図表・史料・統計などを用いた出題も，適宜演習に織り込んでいく。
	後半	明治国家の発展期 明治国家の崩壊期 戦後の日本と世界	恐慌の時代 軍部の台頭 日中戦争から太平洋戦争へ 占領と日本の民主化 冷戦の開始と講和 55年体制 経済復興から高度成長へ 経済大国への道	
3学期				

評価方法	定期試験を中心に総合的に評価する。
学習方法	共通テストの特徴は，出題範囲に「穴」がないことである。各時代を偏りなく，丁寧に学習することが要求される。教科書冒頭に扱われるような「コラム」（例：「資料を読む」「資料に触れる」）からも出題される。また，出題形式も正誤問題から年代順の配列まで多様である。詳しくは授業で指摘・指示するので，受け身にならないように積極的姿勢で取り組んでほしい。
注意事項	特になし。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材を使って学習する。該当部分については，適宜指示する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	3	難関大	社会	日大進学 文系世界史B	4
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 詳説世界史スタンダードテスト 山川出版社			

年間指導目標

早慶、GMARCHなどの難関私大に対応できる得点力と歴史的思考力の養成。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展	1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオンウィーン体制、ヨーロッパの再編、アメリカ合衆国の発展	産業革命以降の近現代史を扱う。前近代の歴史についても、適宜復習する時間を設ける。近現代史は諸国間の関係が複雑にからみあうため、年表を常に傍らに置き、10年間隔で歴史事項を整理・理解するよう努める。
	後半	第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動	オスマン帝国の動揺とアラブのめざめ 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動 第一次世界大戦とロシア革命	ロシアの南下政策に絡む東西の歴史、特にアジア地域を中心として歴史的理解を深めていく。自由主義、国民主義、社会主義帝国主義、ファシズムなどの思想・潮流に着目し、各国の歴史に与えた影響を理解する。
2学期	前半	第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の自立 第16章 現代の世界	世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦 東西対立の始まりとアジア諸国の自立 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 第三世界の自立と危機 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 冷戦の解消と世界の多極化 社会主義世界の解体と変容 第三世界の多元化と地域紛争	戦後の各国の歩みを、冷戦構造を踏まえて理解する。冷戦後の国際関係を整理する。その際、現在進行中の国際問題を事例としてあげるなど、現在の出来事に関連させるように工夫する。
	後半	単元別演習・地域史・総合問題演習・入試問題演習	これまでの学習内容を踏まえて、単元毎の復習、地域毎のタテの歴史、総合問題、そして入試問題演習へとつなげていく。	中国史・中世ヨーロッパ史と近現代史などの入試の穴となる単元を重点的に復習し、地域史（特にアジア・ヨーロッパ史）を中心に復習をしていくことで、重層的な理解ができるようになる。総合問題で解法のポイントを押さえ、入試問題演習で本番に通用する得点力を養成する。（得点率7割目標）
3学期		個別対応（受験対策）		

評価方法	定期試験による。小テスト・課題プリント・ノート提出などを平常点に加味することもある。
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	授業内で適宜、文化史・テーマ史なども扱っていく。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	補助教材の問題集を用いて、既習事項を復習する。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	3	難関大	社会	難関大進学文系 世界史演習	3
教科書		補助教材			
詳説世界史 山川出版社		詳説世界史10分間テスト 山川出版社/ニューステージ世界史詳覧 浜島書店 要点整理ゼミナール世界史 浜島書店			

年間指導目標

早慶、GMARCHなどの難関私大に対応できる得点力と歴史的思考力の養成。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	序章/第1章 オリエンと地中海世界の形成と展開 第2章 南アジア・東南アジア世界の形成 第3章 東アジア世界の形成(1) 第4章 内陸アジア世界の形成と東アジア世界の形成(2) 第5章 近代以前の 아프리카・アメリカ・オセアニア 第6章 イスラーム世界の形成と展開	先史時代、オリエン、ギリシア、ローマ、イラン インド、東南アジア 中国史(中国文明～後漢) 内陸アジア史、中国史(魏晋南北朝～唐) アフリカ、アメリカ、オセアニア イスラーム史	授業をペースメーカーにして、高1・高2の既習事項を復習させる。 補充問題プリントを用いるなど、個々人の苦手分野克服のための課題を課し、早期に知識の穴を埋めさせる。
	後半	第7章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第8章 内陸アジア世界と東アジア世界の展開 第9章 アジア諸地域の繁栄 第10章 近世ヨーロッパの形成(1) 第11章 近世ヨーロッパの形成(2) 第12章 近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	中世ヨーロッパ史 中国史(五代十国時代～元) オスマン帝国、ムガル帝国、明・清 大航海時代、ルネサンス、宗教改革 近世ヨーロッパ各国史 米独立革命、仏革命、産業革命	出題形式に応じた対策・指導を心がける。 各国史、テーマ史、同時代史、文化史など発展的学習にも取り組ませる。
2学期	前半	第13章 欧米における近代国民国家の発展 第14章 アジア・アフリカ諸地域の動揺 第15章 帝国主義の時代 第16章 第一次世界大戦と世界の変動 第17章 ファシズムと第二次世界大戦	18世紀の西洋史 18世紀の東洋史 帝国主義 第一次世界大戦、ヴェルサイユ・ワシントン体制 世界恐慌以降の戦間期、第二次世界大戦	
	後半	第18章 冷戦の時代 第19章 冷戦の終結 センター試験過去問	冷戦 冷戦後 過去問演習	
3学期		個別対応(受験対策)		

評価方法	定期試験 小テスト 課題プリント等
学習方法	授業時に適宜指示する。
注意事項	特になし。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	問題集を用いて、既習事項を復習する。